



アンテナ・伝播研究専門委員会からのお知らせ

No. 20 / 2007年12月

「アンテナ・伝播研究専門委員会からのお知らせ」第20号をお届けします。

今回は、「高速無線通信を支えるアンテナ・伝搬技術特集号」論文募集案内と、2008年3月18-21日に北九州学術研究都市で開催される総合大会においてAP研が主催するチュートリアル講演「アンテナ・伝搬における測定・評価技術」について報告いたします。

【1】アンテナ・電波伝搬関係特集号論文募集

最近の情報化社会におけるブロードバンド化、更には、今後期待されるユビキタス・ネットワーク社会の実現に向けてアンテナ・伝搬技術が無線通信要素技術に果たす役割は年々大きくなっていきます。特に通信の高速化を実現するためには、システムフロントエンドとしての高性能アンテナ設計・解析・測定技術、複雑な伝搬チャネルに対する理論解析やモデリング技術、測定技術が必須となります。

「高速無線通信を支えるアンテナ・伝搬技術特集号」(2008年9月号)では、このような状況のもと、各種アンテナシステム、伝搬関連分野の設計、これらに関する解析および測定を中心として、論文を募集することとしました。多数の皆様からの積極的な投稿を期待しています。投稿締切日は2008年1月8日(火) 厳守となっています。詳細につきましては、下記をご覧ください。

URL:http://www.ieice.org/cs/jpn/cs-edit/CFP/cfp_JB_2008.9.pdf

【2】2008 総合大会チュートリアル講演

近年、情報化社会におけるユビキタス・ネットワーク社会の実現に向けて、多くの無線通信システムの研究開発が進められています。これらの無線通信システムの高性能化、周波数利用の効率化を図るために、高度なアンテナシステムの研究開発と性能評価が不可欠であり、アンテナ・伝搬の測定・評価技術が必要とされています。

2008年3月18-21日に北九州学術研究都市で開催される総合大会においてAP研が主催するチュートリアル講演「アンテナ・伝搬における測定・評価技術」では、アンテナ基本特性の高精度な校正法から、移動通信端末搭載用アンテナの測定・評価、多重波伝搬路内でのアンテナの性能評価、及び移動通信環境における無線チャネルの特性測定まで、様々な環境におけるアンテナ・伝搬の測定法について、原理と概要を説明すると共に、実例を挙げて、これらの測定法の有効性と適用範囲などについても説明します。開催日は未定ですが、多くの方の参加を期待しています。

プログラム (予定)

オーガナイザ：陳 強 (東北大)

1. 電磁波測定とアンテナ較正：杉浦行 (情報通信研究機構)
2. 端末アンテナの測定・評価技術：小川晃一 (松下電器)
3. 陸上移動伝搬路内でのチャネル測定と推定の実際：多賀登喜雄 (関西学院大)

【3】AP 研副委員長の戯言

先月（2007年11月）のお知らせは、10月18-19日に弘前で開催されたAP研、10月22-26日にローマ（イタリア）で開催された”Metamaterials’ 07”への出席の関係で、原稿提出期限にどうしても間に合わず、お休みさせていただきました。申し訳ありませんでした。

青森県初のAP研を弘前で開催しました。懇親会は三味線酒場で、津軽三味線家元によるライブ演奏付きでした（写真）。津軽三味線は、普通の三味線に比べて胴が大きくさおが太く長いのが特徴で、皮は犬の皮（猫ではありません）、高級なものでは土佐犬の皮などが使われており、100万円を超えるものもあるそうです。バチも、他の三味線では象牙やプラスチックが使われますが、津軽三味線は叩き付ける演奏法のため、鼈甲を使っているとのこと。それにしても、凄い迫力でした。

Metamaterials’ 07はその名のとおり、最近はやりのメタマテリアルに特化した国際会議です。メタマテリアルも当初は、左手系とか磁気壁とかの面白そうな話題がいっぱいあったように思いますが、最近、昔からある技術（アンテナ、フィルター、周波数選択板など）を組み合わせただけじゃないの、と思うような研究も多く、少し寂しい気もします。来年3月には千葉大学で、メタマテリアルと小形アンテナに特化した国際会議 IEEE iWAT2008（IEEE APS JAPAN Chap. 主催）が開催されます。今後の研究動向を見るいい機会だと思います。興味のある方は、是非、ご参加ください。詳細はURL（<http://www.ap.tu.chiba-u.jp/iwat2008/>）をご覧ください。

北陸の冬の味覚といえば「越前ガニ」と「氷見ブリ」が有名ですが、これらは福井県、富山県のブランドで、金沢のある石川県ではありませんね。しかし、石川県に水揚げされるカニもブリもこれらと同じ漁場で獲れたものであり、品質にかわりはありません。最近では石川県も、「加能ガニ」、「のと寒ぶり」（加能は加賀と能登とを組み合わせた名称、のとは能登）を商標登録して売り込んでいるようですが、県外での知名度はまだまだです。大分県の「関サバ、関アジ」と愛媛県の「岬サバ、岬アジ」との関係と同じですね。しかしその分値段は安く、美味しいカニやブリを金沢では安く食べたり買ったりすることができるということになります。是非、金沢にお越しください。



<問合せ先>

アンテナ・伝播研究専門委員会副委員長 牧野滋（金沢工業大学）

E-mail : ap_ac-chair@mail.ieice.org